

2020年度
経済同友会 代表幹事所見

日本再生の戦略を担う新たな「器」の構想を
～「埋没」の危機を乗り越え、いて欲しい国、いなくては困る国・日本へ～

櫻田 謙悟

1. コロナ危機を超えて

～危機の教訓を活かし、不確実な未来に向き合うための変革を

2. 埋没の危機に直面する日本

～自らの強みを活かすための戦略と行動を

3. 日本の反転攻勢と再生に向けて

～将来に向けた選択のため、新たな政策形成の「器」を

4. 経済同友会の行動

～「with/after コロナ」の経済社会像を描き、DoTankとしてのコミットメントを

コロナ危機の影響は 人類社会の**不可逆的な変革**につながる

⇒ 個人の生活、価値観、働き方、ビジネスの形態、
人と社会との関わり、国際秩序

コロナ危機以前から、**グローバル化・デジタル化** によってもたらされた**課題や歪み**に直面

⇒ コロナ危機がそれらを一気に顕在化、増幅しつつある

① デジタル化の加速に伴う社会不安や格差

社会・経済インフラのデジタルシフトは必然
この変化への適応が国や企業の競争力を決定づける

② 国際社会の安定を支えてきた前提の揺らぎ

貿易摩擦に端を発した米・中対立が先鋭化
民主主義と資本主義に基づく多国間連携を奉じるリーダーは少数派

③ 人類社会の持続可能性

グローバルな課題への対応は、「誰か」のためではなく、
「私たち」自身の生き残りと安全、繁栄のため



**不確実性の下でも持続的に発展・成長できる強靱性ある
社会の姿を新しく描き直すことが、今まさに問われている**

1. コロナ危機を超えて

～危機の教訓を活かし、不確実な未来に向き合うための変革を

2. 埋没の危機に直面する日本

～自らの強みを活かすための戦略と行動を

3. 日本の反転攻勢と再生に向けて

～将来に向けた選択のため、新たな政策形成の「器」を

4. 経済同友会の行動

～「with/after コロナ」の経済社会像を描き、DoTankとしてのコミットメントを

◆日本はいまどこにいるのか

⇒国際政治やグローバル経済のダイナミズムを受動的に受け入れるしかない、周縁に位置する国として国際社会の中で埋没

◆「茹で蛙」のようにじわじわと現在の状況に

⇒危機に際して、提言や「改革のラストチャンスを逃すな」という警鐘が繰り返されてきたものの、空しく立ち消えに

◆日本が世界の中で存続していくための条件

⇒人々の知恵と産業の力で高い価値を生みだし世界的な課題に解を提供し、国際社会の安定と繁栄の増進に寄与すること

=「いて欲しい国、いなくては困る国」であること

…にもかかわらず、経済・産業の力、一点を見ても、日本の存立基盤は既に危機的な状況

◆日本にはさまざまな強み

⇒「私」を超えて公に貢献する意識や「三方良し」に象徴される
ステークホルダー重視の姿勢



埋没の流れから反転攻勢

**自らの強みを分析し、それを活かす方策を考え、
果断に実践する戦略と実行力が必要**

1. コロナ危機を超えて

～危機の教訓を活かし、不確実な未来に向き合うための変革を

2. 埋没の危機に直面する日本

～自らの強みを活かすための戦略と行動を

3. 日本の反転攻勢と再生に向けて

～将来に向けた選択のため、新たな政策形成の「器」を

4. 経済同友会の行動

～「with/after コロナ」の経済社会像を描き、DoTankとしてのコミットメントを

- ◆ 長期的な視野に立った問いに答え、
国としての戦略をどのように定めるのか
- ◆ 戦略を誰が決定するのか
どのような器を使って進むべき道を決定するのか

**長期戦略に立った真の議論が行われ、
現在と将来に関わる選択において
現実の政策・制度として具現化してきた例は多くない**

⇒ プロセスは予定調和的
結論も足下課題の対応にとどまりがち

既存の政治・行政の機能を補い、
ステークホルダーを変化に向けて突き動かす力

＝新しい政策形成の仕組み

- ◆ 日本の潜在性を解き放つ
- ◆ 志を共有するステークホルダーが集結
- ◆ 共通の目的に向けて知恵を出し合う場



重要課題を特定し、日本を再生するための
論点、選択肢を描く

1. コロナ危機を超えて

～危機の教訓を活かし、不確実な未来に向き合うための変革を

2. 埋没の危機に直面する日本

～自らの強みを活かすための戦略と行動を

3. 日本の反転攻勢と再生に向けて

～将来に向けた選択のため、新たな政策形成の「器」を

4. 経済同友会の行動

～「with/after コロナ」の経済社会像を描き、DoTankとしてのコミットメントを

経済同友会

= 新たな政策形成の場づくり

を担う運動体へと進化

山積する課題解決に挑戦するためには、

① 社会のあらゆる**ステークホルダーとの対話・連携**

② 政策を立案・提言する**“Think Tank”機能** +

政策実現に向けて自ら行動する**“Do Tank”機能**

⇒ **この方向に添ったさらなる行動・コミットメント**

◆ with/after コロナ・イニシアティブの設置

- 環境変化に対応した経済社会の姿を描き直すための議論
⇒ 「Japan2.0」の進化
- 中立的でオープンな対話プラットフォームの構想

◆ 行政の会議体などのパイプを活用

- 経済的な危機の克服、制度・規制改革などについて
短期・中長期の両面から提言、はたらきかけ

◆ 委員会・PT

- 「with/after コロナ」への適応という問題意識を共有
- 財政・社会保障、雇用、政治・行政等の課題に、新たな解
- 持続的に高い価値を生み出す企業経営の実践

経済同友会 設立趣意書（1946年4月30日）

“**旧き衣を脱ぎ捨て**、現在の経済的、道徳的、思想的頹廃、**混乱の暴風を乗り切って**
全く新たなる天地を開拓しなければならない”

経済同友会の思想的伝統

- ◆ 強烈な危機感
- ◆ たゆみない改革への意思
- ◆ 実践・行動に対する**企業経営者のコミットメント**

**会員の皆さま方のご支持とご参画を
心からお願い申し上げます**